日本昔話の解説書

天の羽衣

あ、天の羽衣、やっと見つけて、天に戻った天女さま。

羽衣をなくしてしまって、天に戻ることをあきらめていました天女さまでしたが、夫が隠していた羽衣を見つけ、ようやく天に戻ることが出来ました。

かちかち山

い、いたずらタヌキ、賢いウサギがこらしめました。

やさしいおばあさんを殺したタヌキをこらしめるため、ウサギが、かちかち山でタヌキの背中に火をつけ、やけどした背中に、からしをぬってこらしめました。そして、最後は、どろの船に乗せて、水の中へ沈め、おばあさんのかたきうちをはたしました。

お月さまのウサギ

う、ウサギがお月さまに居るわけは。

人間になりたいと思っているウサギが、神さまから「自分の食べ物を、人間にごちそうしなさい」と言われました。でも、さむい冬には草も無く、しかたなく自分を焼いて、人間に食べさせようと、火の中に飛び込みました。すると、神さまがだきかかえて、お月さまの国に連れて行きました。

地獄の暴れ者

え、えん魔さまにも手に負えず、この世に戻った三人組。

えんま大王さまから、地獄行きを命じられた、歯医者、軽業師、山伏の三人組は、針の山では、軽業師に助けられ、湯で釜では、山伏に助けられ、そして、えんま王に食べられると、歯医者がえんま大王の歯を次々にぬいていきましたので、つにこの世に戻された三人組。

おむすびころりん

お、おむすびで、ネズミと仲良くなったおじいさん。

おむすびを穴に落としたおじいさん。穴の中では、ネズミたちがおいしそうにおむすびを食べていましたので、おじいさんは、毎日おむすびを、穴に落としてやりました。するとある日、お礼にと、ネズミがおじいさんにごちそうしてくれておばあさんには、おみやげをくれました。

舌きり雀

か、かわいい雀のお宿はどこですか。

雀の大好きなおじいさんと、雀の嫌いなおばあさんがいました。ある日、雀が、おばあさんの洗濯のりを食べましたので、怒ったおばあさんは、雀の舌を切りました。それを聞いたおじいさんは、雀に謝ろうと、雀のお宿を探しに出かけました。

金太郎

き、気がやさしくて力持ち、まさかりかついだ金太郎。

足柄山の山奥に金太郎という元気な男の子がいました。金太郎は、森の動物たちと友達になり、まさかりをかついでくまに乗り、動物たちを従えて、遊んでいました。金太郎はすくすく育ち、立派な若者になりました。名を坂田金時と改め、都で強い武士になりました。

鶴の恩返し

く、苦しむ鶴を助けたら、姿を変えて恩返し。

わなにかかった鶴を助けた、やさしいおじいさんの家に娘が訪れました。
娘はおじいさんの家には米も味噌も無いのに気づきました。自分が織物を織りますので、町で売って米や味噌を買ってきて下さい。ただし、　私が織っているところはけっして見ないでと言って沢山の織物を織りました。おじいさんは、娘の体が心配でついに娘が織っている部屋をのぞいてしまいました。なんと、鶴が織物を織っていました。

三枚のお札

け、元気なにくまれ小僧も、三枚のお札で助かりました。

元気な小僧さんが、うら山へ栗拾いに行き、山姥におそわれます。
和尚さんにもらった 3 枚のお札でやっと寺にもどります、和尚は追いかけてきた山姥をうまく言いくるめて豆粒に化けさせて、お餅にくるんで食べてしまいました。

笠地蔵、

こ、心のやさしい老人に、笠地蔵さまからの贈り物。

年の瀬に、おじいさんは町でわらの笠を売ろうとしましたが、少しも売れずに帰りの雪道でお地蔵さんに笠をかけてあげました。
その夜のこと、6 人のお地蔵さんがお礼にやってきて、米や餅を届けてくれました。
お陰でよいお正月が迎えられました。

安寿と厨子王

さ、さらわれた二人の兄弟、安寿と厨子王

父のいる筑紫（福岡）へ向かう途中、だまされて、母は佐渡へ、安寿・厨子王の兄弟は丹後の山椒大夫に別々に売られてしまいました。安寿のお陰で厨子王はにげて都にのぼりました、おおきくなった厨子王は出世して、母を捜しに佐渡へ行き年とった母と再会し、お守り本尊のお陰で母の目がひらきました。

金の斧

し、正直者には、金の斧

正直者の木こりが池で斧を落としました、水の神が水の中から金と銀の斧を持ってきて木こりにみせますが、自分のは鉄の斧だと正直に言うと神様は、金と銀の斧もくださいました。うそつきの木こりが同じように池に斧を落とし金の斧は自分のだと言うと、水の神様は怒って自分の斧も返してもらえませんでした。

ヤマタノオロチ

す、スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治する

毎年、一人づつ娘を食い殺すヤマタノオロチ。スサノオノミコトは困っている親子に強い酒を用意させ、ヤマタノオロチを酔わせて退治し、美しい娘をたすけました。

羅生門の鬼

せ、千年前、羅生門には、鬼がいた

千年前、京の羅生門には鬼が住んでいました、鬼退治を命じられた若者が戦い、腕を切り落として持って帰りました、7 日間は箱に入れておくように言われた最後の夜、老婆に化けた鬼が取り戻しにきて腕と共に空へ飛んで行ってしまいました。

鴨取り権兵衛

そ、空を飛んでいった権兵衛さん

権兵衛さんは、網にかかったたくさんの鴨にひっぱられて飛んでいき,傘屋に落ちました、そのあと又強い風が吹いて傘と一緒に飛んでいき、塔のてっぺんに落ちました、権兵衛さんを助けようと下で受けたお坊さん達の目の火花で塔は焼けてしまいました。

かぐや姫

た、竹から生まれて天に帰ったかぐや姫

ピカピカ光る竹からうまれたかぐや姫、その美しさは都まで届きますが、姫は月に帰らなくてはなりません、満月の夜、帝の命令で姫を守っていた兵士達は突然の光に眠ってしまい、姫は黄金の馬車に乗って月へ帰っていきました。

狸と彦一

ち、智恵のはたらく彦一が、いたずら狸をこらしめる

いたずら狸がりこうな彦一を困らせようと色々いじわるをしますが彦一は狸のしわざと見破ります、とうとう本物のお殿様に無礼をはたらき捕らえられてしまいました。

海幸彦、山幸彦

つ、釣り針をなくして困った山幸彦

狩の得意な弟の山幸彦は、釣りが得意な兄の海幸彦の釣り針を借りてなくしてしまい困っていたら、海の神様のことばに助けられて、宮殿に行きお姫様と結婚します、3 年の時がたち、山幸彦が帰ってみると、海幸彦の怒りはまだ治まっていませんでしたが、お姫様からもらった不思議な二つの玉で仲直りができました。

天狗の隠れ蓑

て、天狗をだまして盗んだ、姿が消える隠れ蓑

昔、なまけものの若者が、それを着ると姿が消える蓑を天狗をだまして取り上げました。蓑を着て姿を消して人のお酒を飲んでいましたが、お母さんに燃やされてしまいました、若者はその灰を塗って又でかけて酔っ払って寝てしまい、小便をかけられ、姿が現れてしまい捕まってしまいました。

養老の滝

と、養老の滝

親孝行な若者が、たきぎを集めに山にいき足をすべらせて谷へ落ちてしまいました、滝の音で目をさまし、飲んでみると水ではなくお酒でした、体の弱い父親に飲ますとすっかりよくなりました、この話が都の帝まで聞こえて帝が行幸され「養老の滝」と名づけられました。

一休さん

な、なんでもとんちで一発解決、一休さん。

京の都でとんちで有名な一休さん、将軍様から屏風の中の虎を捕まえるようにといわれますが、一休さん将軍様に虎を屏風から追い出すように頼みます、これには将軍様も参りました。

わらしべ長者

に、握ったわらから、大金持ちになりました。

お金持ちになりたい若者が、観音様のお告げ通りにすると、わらが次々と色々な品にかわり、とうとう屋敷と畑を手に入れました、人はわらしべ長者と呼びました。

ぬれ地蔵

ぬ、ぬれ地蔵、遊ぶと喜ぶお地蔵様

子供たちが、木で造られたお地蔵様を持ち出して一緒に遊んでいましたが、お城の役人が、ばちがあたると言ってお堂に鍵をかけてしまいました、すると役人の具合が悪くなり、家族がお地蔵様にお願いすると、子供たちと遊びたいと聞こえたのでお堂をあけ、元のように子供たちと遊ぶようになり、役人も元気になりました。

干支のおこり

ね、猫がネズミを追いかけるのには、訳がある。

むかしむかし神様が大晦日に明日のお正月に早く来た12匹に1年の代表になってもらいますといわれました。ネズミは猫に2日だと嘘をつき、自分は牛の背に乗って門の所で飛び降りて 1 番に着きました、嘘に気がついた猫は今でもネズミを追いかけています。

こぶとり爺さん

の、のんきな爺さん、こぶが取れて大喜び

こぶがついているお爺さんが、山へしばかりに行くと雨になり、洞穴で眠ってしまいました。目がさめると外で鬼たちが騒いでいたので、つい一緒に踊りだしました、お爺さんの踊りが上手だったので、鬼は明日も来るようにと、こぶを預かりました、となりのいじわるなお爺さんもこぶをとってもらおうと山へ行って踊りますが、下手だったので鬼は昨日のこぶもつけてしまいました。

花咲か爺さん

は、花咲か爺さん、枯れ木に花を咲かせましょう。

おじいさんがポチをつれて山にいくと、ここ掘れワンワンと鳴くので掘ってみると小判や宝石がでてきました。となりのいじわるなお爺さんがむりやり鳴かせて掘ってみるとゴミやヘビがでてきたのでおこってポチを殺してしまいました、やさしいおじいさんはポチを埋めると大きな木になり、その木で臼を作り餅をつくと、お金がでてきました、いじわるなお爺さんが餅をつくと汚いものばかりでてくるので臼を燃やしてしまいました、やさしいお爺さんはその灰をまくと桜は満開になり、お城のお殿様も喜ばれました、いじわるなお爺さんが灰をまくとお殿様の目に入ってしまい、捕まってしまいました。

七福神

ひ、七人の福の神から贈り物。

寒い雪の夜、七福神さまがちょっと休ませてくださいとこられました、びんぼうなおじいさんとおばあさんは,白湯をだしたり、自分たちの寝ているわらで笠や蓑を作ってあげました、大晦日の夜、七福神がお礼にこられて欲しいものが何でもでてくる打出の小槌をくれました、そのおかげで楽しいお正月が迎えられました。

ぶんぶく茶釜

ふ、ぶんぶく茶釜、あっちいちいの狸さん

男の人がわなにかかったタヌキを助けてやると、タヌキはお礼にといって茶釜に化けて隣村の和尚さんに買ってもらいました、和尚さんは小僧さんにお茶の用意をするようにいいます、炉の上に置かれた茶釜は熱くなりとうとう頭や足を出して逃げていきました、その後タヌキは綱渡りの芸を見せて大評判になり、男の人もお金持ちになりました。

牛若丸

へ、弁慶をヒラリとかわす牛若丸

京の都、五条大橋でのこと、弁慶は今まで 999 本の太刀を奪い取り、あと 1 本で 1000 本です、そこへ薄い絹の羽織をまとった牛若丸の太刀の立派なのをみて奪おうとしますが、ヒラリヒラリとかわされ、ついに参ってしまい牛若丸の家来になりました。

クラゲの骨

ほ、骨をぬかれれたクラゲのおしゃべり

竜宮のお姫様が病気になり、猿のきもを食べると直るといわれ、王様はカメに猿をつれてくるようめいじました、カメはうまく言って猿を背中に乗せて竜宮の門まで帰ってきますが、クラゲのおしゃべりで自分のきもを取られることを知った猿はカメをだまして陸へ帰ってしまいます、これを聞いた王様は罰としてクラゲの骨を抜いてしまいました。

しょうじょう寺の狸ばやし

ま、満月の夜は、和尚と狸が大あばれ

山の奥にしょうじょう寺というお寺がありました。回りにはタヌキがたくさん住んでいて月夜にはたくさん集まって騒いでいました、あまりにもおもしろそうなので和尚さんも一緒に腹づつみを打つとタヌキも打ちます。満月の夜、両方がポンポコ腹づつみを打ち合ってタヌキの親分の腹がはじけてしまいました。

弘法の布

み、みすぼらしい姿と、立派な姿のお坊様

ある町の呉服屋の前にみすぼらしい姿のお坊さんが托鉢にきてお経を唱えますときれい好きな主人が追い返してしまいます、次の日、立派な衣をきたお坊さんが托鉢にきますと、主人は家の奥へ通して饅頭をだします、するとお坊さんは、この饅頭は衣にもらったと言い衣に饅頭を塗りつけ昨日の私も,今日の私も同じと言ってたちさります、この方が弘法大師だったと知ると、主人は自分を恥じました。

家に戻った娘の骨

む、骨になった娘

おじいさんが町へ行く途中、木陰で人の骨をみつけてかわいそうになり、土をかぶせて水をあげました、すると娘の声がして、町の家では私の 3 回忌の法要をしているので知らせてほしいといいました、おじいさんは町につくと娘の家へいき両親に娘さんのことを話すと大変喜ばれ 3 年ぶりに娘の骨は家に帰れました。

左甚五郎

め、名人が創って咲かせた竹水仙

彫り物の名人、左甚五郎が飛騨（岐阜県）から江戸に行く途仲、お酒の飲みすぎでお金がなくなってしまい、宿の払いの代わりに庭の竹で水仙を彫り大黒柱に飾っておくと大名がたいそう気に入り百両で買い上げました。

桃太郎

も、桃から生まれた桃太郎

おばあさんが川へ洗濯にいくと、大きな桃が流れてきて中から赤ん坊が出てきました、桃からうまれた桃太郎は大きく育ちました、ある日鬼が島の悪い鬼が村の人を困らせていると聞き、おばあさんにきび団子をつくってもらって鬼退治にでかけました。途中、犬・猿・キジが団子をもらって家来になりました。鬼が島につくとちょうど鬼達は酒盛りの最中です、家来たちの活躍と桃太郎が鬼の親分をやっつけて降参させ、宝物をいっぱいもって帰りました。

安珍と清姫

や、やくそくを破った安珍、鐘の中。

熊野大社へお参りする途中、安珍は村の庄屋の家に泊めてもらいました。庄屋の一人娘清姫は一目で安珍を好きになり、安珍も美しい娘が気に入り帰りにも寄るとやくそくしました。熊野につくと他のお坊さん達から心の迷いをさとされ、安珍も反省してもう逢わないと決めました。約束を破られた清姫は怒りのあまり大蛇に変って安珍を道成寺においつめ、鐘の中に隠れた安珍を炎で焼いてしまいました。

一寸法師

ゆ、指より小さな一寸法師が鬼退治

小指ほどしかない一寸法師は、おわんの船にのり、針の剣と、はしのかいを持って京の都へ上っていきました。大きなお屋敷のお姫様の家来になり、清水寺の参拝にお供した帰り道、娘をさらっていくという噂の鬼にであいました、鬼は小さな一寸法師を飲みこんでしまいますが、お腹の中で針の剣であばれると、鬼はたまらず吐き出して逃げていきました、鬼の忘れた打ちでの小槌をふると一寸法師の体はぐんぐん大きくなり、立派な侍になりました。

ネズミの嫁選び

よ、世の中で一番強いのは、やっぱりネズミ。

ネズミのお父さんは、娘を世界一強い方に嫁がせたいと思って色々な方にたのみますが、結局ネズミさんが一番強いといわれてとなり村の元気なネズミに嫁がせてたくさんの孫に恵まれました。

猿かに合戦

ら、らんぼうな、いじわる猿を皆で退治

むかしカニのお母さんが道ばたで拾ったおにぎりを猿がむりやり柿の種と替えてしまいました。カニが柿の種をまいて実がなるころ又猿がきて自分はおいしい赤い実を食べ、カニには青い実を投げつけて死なせてしまいました。子供のカニたちは臼さん、栗さん、蜂さんに応援をたのみ、帰ってきた猿は囲炉裏で栗がはじけ、蜂にさされ、臼の下じきになって降参しました。

浦島太郎

り、竜宮で夢を見ていた浦島太郎

浦島太郎は浜辺でいじめられていたカメを買い取って海へにがしてやりました、しばらくするとカメがきて竜宮のお姫様からお連れするように言われたといって迎えにきました。時間のたつのも忘れてごちそうを食べたり踊りを見ていましたが、お母さんのことが心配になり帰る時、お姫様から玉手箱をもらいました、村に帰るとすっかり変っていてお母さんもいません。玉手箱をあけると白い煙がでて真っ白なひげのおじいさんになりました、楽しく過ごした間に何十年もたっていたのです。

塩ふき臼

る、留守の間に盗んだ石臼、今も止まらず塩をだす。

欲ばりでお金持ちの兄は、びんぼうな弟にお正月の餅も貸してやりません。弟は家に帰る途中老人から塩をわたされ村の小さな家にいって石臼と交換するよう言われてその通りにしました、老人は石臼を右に回せば欲しいものが出て左へ回せば止まると教えて、饅頭を置いておくようにと言いました、弟が臼を回してお金持ちになると兄が臼と饅頭を盗み出し、饅頭を食べて臼で塩を出しましたが止め方がわからず、乗っていた舟は沈んでしまい、石臼は今でも海の底で塩を出しているそうです

狸の札

れ、礼を忘れるなと、親に言われた狸さん。

博打好きな若者が田舎道を歩いていると子供タヌキがわなにかかっているのを見て助けてやりました、あくる夜タヌキがお礼にきて何にでも化けることができますというので、博打で負けたので一両に化けさせて金集めの男にわたしました。

姥捨て山

ろ、老人の知恵の大きさ知りました。

60 才を過ぎると年寄りは山に捨てるようにとお殿さまからの命令ですが、やさしい若者はどうしても母親を捨てられずに納屋に隠します。しばらくして隣の国々から難しい問題を解かなければこの国を攻めほろぼすといわれます、国中の人が解けないでいると納屋の母親が見事に｣解決します、これを知ったお殿様は間違いに気づき年寄りを大切にする国になりました。

ムカデの買い物

わ、わらじを、なかなか履けないムカデさん。

森の中で虫たちが宴会の相談をしています、町までお酒を買いに一番早く行けるのはムカデさんだ、ムカデさんが行ってる間に皆料理を持ってきたらムカデさんは家にいました、さすがムカデさん早いねと虫たちが言うとやっとわらじが半分はけましたとさ。

吉四六さんの黒椿

ん、ん〜ん、あるわけ無い、無い、黒椿。

とんちのうまい吉四六さんの噂はお殿様まで届き、お殿様は吉四六さんに自分をだませたらこの剣をやる、だめなら首を切るといわれました、吉四六さんは咲くはずのない黒椿をその剣で切りたいので貸してくださいといってお殿様をうまくだまして剣を手にいれました。